

救急業務における DX 推進

救急搬送支援システムの実証実験開始

～救急搬送の迅速化、救急業務の効率化への取り組み～



那覇市消防局では、令和6年4月16日(火)より、実証実験参加医療機関(※)及び協力事業者(TXP Medical 株式会社)と連携し、「救急搬送支援システム」の実証実験を開始します。
(※那覇市立病院、沖縄赤十字病院、沖縄協同病院、大浜第一病院、浦添総合病院、友愛医療センター、県立南部医療センター、琉球大学病院)

■那覇市の救急体制の現状

令和5年中における救急出動件数は 23,701 件を記録し、2年連続で過去最高を更新しました。特に、令和4年以降、救急要請件数の急増と、沖縄県内の救急医療ひっ迫状態が重なり、救急隊が現場に到着しても、受入先が見つからない救急搬送困難事案※が急増しており、市民サービスへの影響及び、昼夜を問わず長時間の救急活動となる救急隊の業務負担は極めて重大な状況に陥っています。このような背景の下、迅速かつ効率的な救急体制の整備が急務とされています。

(※救急隊による「医療機関への受入れ照会回数4回以上」かつ「現場滞在時間 30 分以上」の事案)

実証実験に関するお問合せ先
那覇市消防局 救急課 大城・金城
(098-867-1199)naha_f_kyu001@city.naha.lg.jp

■本実証実験の目的

①市民サービスの向上

救急活動時間の短縮によって「適切な早期搬送」、「保留事案の件数減少」を図る

②救急事務の負担軽減

救急隊の業務負担となっている二重作業の「手書きの記録票」と、「消防 OA 入力」の報告書をDX化することで解消する

■本実証実験の期間

令和6年4月16日(火)～令和6年5月27日(月)

■本実証実験の概要

- ①タブレット端末を使用して画像 OCR や音声入力などの機能を活用し、傷病者情報を集約
- ②搬送予定の医療機関へ傷病者情報を送信し、病院連絡に加えて病院側で情報を可視化できる
- ③帰署後、タブレット端末から消防 OA へデータを取り込み、報告書作成時間の短縮化



■市民の皆さまへお願い

実証実験期間中、本市救急隊が保険証やお薬手帳等をタブレット端末で撮影させていただくケースがあります。個人情報、医療情報の安全管理に関わる関連ガイドラインに準拠して適切に管理いたします。ご理解のほどお願いいたします。



実証実験に関するお問合せ先
那覇市消防局 救急課 大城・金城
(098-867-1199)naha_f_kyu001@city.naha.lg.jp